

科目名： 子ども家庭福祉	担当教員名： 齋藤 慶吾	使用テキスト：出版社名・テキスト名 「新基本保育シリーズ第3巻 子ども家庭福祉」第2版中央法規。
授業の到達目標及びテーマ： 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷を深める。 2. 子ども家庭福祉と保育の関連性並びに児童の人権を理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施の体系を認識する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題を把握する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望を読み解く。		
授業の概要： 講義を中心としながら、双方向の意思疎通による参加型授業を行う。またテーマによってはグループワークを取り入れる。		
回	項 目	内 容
1	オリエンテーション 子ども家庭福祉の理 念と概念	子ども家庭福祉の学びから、理解するための方法、基本構造を学ぶ。 児童という対象の特徴、低成長期家庭、子どもの貧困等の現代的課題を理解し、子どもの最善の利益を深く考える。
2	子ども家庭福祉の歴 史的変遷と諸外国の 動向	子ども家庭福祉における歴史の変遷を学ぶ。 ①ニーズの変化（親族や近隣の支え、児童の保護、児童の家庭への支援） ②担い手の変化（地域社会を含めた担い手のとらえ直し）
3	子どもの人権擁護	子どもの人権擁護の仕組みに関する構築のプロセスを理解して児童の権利に関する条約を学ぶ。また保育士等の今後取り組むべき課題を考える。
4	子ども家庭福祉の制 度と実施体系	児童福祉法をはじめとする各法律に基づき構築されている子ども家庭福祉の実施体制全般を学ぶ。
5	子ども家庭福祉の施 設と専門職	児童福祉施設の種類やその目的及び役割、関係機関や専門職の役割、専門職倫理について学び、理解を深める。
6	少子化と地域子育て 支援	子育て支援施策が進められてきた経緯を確認して、子ども・子育て支援制度の概要や子育て家庭ニーズに対応する子育て支援サービスの具体例や課題について考える。
7	母子保健と子どもの 健全育成	母子保健、子どもの健全育成という視点や妊娠から学童期までの支援体制を学び、今後の課題について考察する。
8	多様な保育ニーズへ の対応	制度を踏まえて、多様な保育ニーズに対応するための仕組みや、施設型給付・地域型保育給付を中心に様々な保育形態を学ぶ。加えて障害児支援の現状を考察する。
9	子ども虐待・DVと その防止	子ども虐待・DVの現状を理解するとともに、それらが子どもに及ぼす影響や防止するための取り組みの視点を学ぶ。
10	貧困家庭、外国籍の 子どもとその過程へ の対応	貧困の現状や貧困のなかで子ども期を過ごす様々な影響と外国にルーツを持つ子どもやその過程の現状を学ぶ。
11	社会的養護	社会的養護の概要やその方向性等を学ぶとともに、社会的養護下の子どもたちを取り巻く状況について考える。
12	障害のある子どもへ の対応	障害児への支援の変遷を振り返り、かつ今後の障害支援における配慮された子育て支援の重要性を学ぶ。
13	少年非行等への対応	少年院や児童自立支援施設といった非行専門施設の歴史や支援の現状を理解する。
14	次世代育成支援と子 ども家庭福祉の推進	1.57ショック、エンゼルプラン、次世代育成支援対策、子ども子育て関連3法、幼保連携の考え方を整理しながら学んでいく。
15	地域における連携・ 協同とネットワーク	保育現場内外で展開されるさまざまな連携・協働やネットワークについて、保育所保育指針等から学ぶ。
参考書・参考資料等： 参考書はその都度指示。必要資料は随時配付。		
学生に対する評価方法： ①受講態度及び小レポート②ノートのとめ方③テスト成績とする。 それぞれの配分は、2：3：5とする。		